

職場体験の受け入れ企業を募集中

地域人材の育成にご協力ください！！

くらしサポートセンター守口では、今すぐの就労が困難な利用者の方に、挨拶や身だしなみ・生活のリズムの改善等の社会性を身につける支援から所内外の作業実習、能力開発等の就労に向けた支援を行っています。「働きたいが、働く自信が持てない」「興味はあるが経験してから働きたい」等利用者のニーズはそれぞれですが、職場体験からスタートしていただき、少しずつ社会との繋がりや自信を付けることにより、安定した仕事に就くことを目的としています。

そのため多種多様な、ご協力いただける企業様を大募集しています。

- ・実習期間中の実習生にかかる費用は無料です（弊所が負担）。
- ・万一の事故等、損害・賠償保険に加入しています（弊所が負担）。
- ・弊社から企業様に実習委託費をお支払いします。

就労の前に職場体験で ステップアップ

くらしサポートセンター 守口ニュース



vol.21
2018年10月

発行：くらしサポートセンター守口
〒570-0083
守口市京阪本通2丁目5-5
守口市役所7階

刊代無料
0800-200-8011
TEL：06-6998-4510
FAX：06-6998-4512
平日 9:00~17:30

企業面接会 in 守口市役所！！

地元優良企業とのよりよいマッチング！！
どなた様もご参加頂けます！お気軽にご参加下さい

11月8日（木）、9日（金）



①③9：30～12：30、②④13：30～16：30（各1社）

守口市中部エリアコミュニティセンター
（守口市役所地下1階）



| 日時 | 11月8日(木) 9:30~12:30 | 11月8日(木) 13:30~16:30 | 11月9日(金) 9:30~12:30 | 11月9日(金) 13:30~16:30 |
|----|------------------------|-------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| 職種 | ①お菓子工場内の ライン作業、軽作業 | ②警備業 (交通誘導) | ③倉庫内での軽 作業(ピッキング、 仕分け、梱包な ど) | ④福祉送迎ドライ バー(透析患者様 の送迎) |

なお、当日は履歴書（写真貼付）が必要ですが、事前に当センターで作成することもできます。面接会は、予約制のため、事前にくらしサポートセンター守口までご連絡下さい。

・効果的な実習にするために、実習前、実習後に、企業担当者様、弊所担当者、実習生の打ち合わせを行います。実習の内容は、普段の業務の中の簡単な事務作業、清掃作業など、事前に打ち合わせをさせていただきます。

ご興味のある企業様はくらしサポートセンター守口までご連絡をお待ちしています。企業開拓員が訪問させていただきます。

まんぷく食堂1号店

ハロウィンイベント



猛暑つづきだった夏も終わり、過ごしやすい秋がやってきましたね。まんぷく食堂がある『ララはしば商店街』では、10月27日（土）に商店街をあげてハロウィンイベントを開催されます。

『ララはしば商店街』では色々な商店がグルメをだしたり、雑貨を売ったり盛りだくさんのイベントとなっております。

私達まんぷく食堂は、摂南大学の学生さんと協力してビンのジャックオーランタンを一から作るワークショップを開いたり、ハロウィンのワンポイントシールメイク、不思議な物体スライムの手作り講座を行います。

ほかにも、商店街では『はしばなぞテン』という謎解きイベントが開催されます。皆様、ハロウィンはララはしば商店街で楽しみませんか？



▲はしばなぞテン！

10/23(火)~27(土)

10:00~17:00

参加・お問合わせは

ララはしば事務所まで

06-6996-6085

就労準備支援事業卒業生の感想

はじめの第一歩を
応援します！

Aさんはくらサポを利用し始めて6か月、大手製パン会社で障害者対象のパン・洋菓子の製造補助職に応募し、契約社員として就労を開始されました。週5日、8時間の勤務で、月10時間程度の残業も見込まれるハードな職場です。今回の報告は、お忙しいAさんに代わってスタッフからご紹介します。



Aさんを応援する支援ネットワークの構築

Aさんは医療機関からくらサポにご紹介を受けました。障害福祉課で手帳も取得され、くらサポの就労準備支援事業に参加しながら、ハローワークの福祉サービス体験説明会にもスタッフと同行し、どういう働き方をしていくか検討していきました。ハローワークの専門援助部門に登録して障害者職業センターで職業評価を受け、関係機関のケース会議を経てハローワークのJOBガイダンスを受講しました。それを契機に障害者就業・生活支援センターわーくぶらすに登録し、就労後、相談できる場も得ました。

できごとと関係機関数だけでも随分多くの支援を受けました。Aさんは手帳取得後初めての就労でわからないことも多く、就労まで慎重に、考えと気持ちと体力を同調させていく努力の道のりでした。

Aさんが過去に生きづらさを感じていたこと

Aさんは、中学3年生頃から周囲の友人と自分に何か違う感じを持ち始め、高校1年生で不登校になり中途退学。若年者支援施設を利用し、断続的に精神科も受診しながらフリーター生活を送ってこられました。体調を崩す時期もありましたが、近年、発達障害のあれこれの情報を得るにしたがって、自分からドクターに発達障害の検査をしてほしいと申し出て、昨年、広汎性発達障害の診断を得ました。

自分の特性について、新しいことになれるのに時間がかかる、複数の指示は苦手であるが自分が呑み込んで確認できる一呼吸の余地があったりメモを書いたりできると対応可能、など整理できてきました。激しい寒暖差など気候の変動に弱く、雨の日は不調になりがちで夏より冬が苦手です。

支援や交流を通じてのAさんの変化

Aさんは当初、くらサポ利用の目標を「人慣れ、社会慣れすること」とされ、体力精神力の面で週3日、1日2時間程度の利用がフィットしていました。調理実習、グループワーク、作業実習をそれぞれ週1回設定すると皆勤で利用することができ、スタッフにとってAさんは「何ができない人だろう？何が課題なのだろう？」と弱い部分探しをする対象でした。落ち込みの経験がないと落ち込みの兆しをキャッチしたり落ち込み対策を検討したりできないので、支援にとっては落ち込む体験も貴重なのです。

利用後2ヵ月ほどで午前から午後を通じての特別メニューを設定した際、初めてスタッフに疲労感を見せられ、多人数のざわざわした環境はまだキツイことがわかり、自己理解を深めるきっかけになりました。

またグループ活動では、他のメンバーの手が空いてしまわないように気遣ったり、自分の意見を言いながら人の意見も尊重することができたり、人に配慮できる優しい人柄が伝わってメンバーとの交流が進んでいきました。



自分自身を知り、少しずつできることを！！

職業評価を受けてからはフル勤務をめざして毎日利用することを希望され、昼食休憩をはさんで5時間から7時間まで利用時間を徐々に伸ばしていきました。そのことはAさんの自信になり、自分の特性や配慮してほしいことなどを記載した自己紹介書を作成して積極的な応募活動ができました。

自分のことをわかって伝えられることは大きなポイントでした。過去の失敗や挫折、葛藤も含めて経験したことのひとつひとつを自分をわかるための材料とされ、自分の声に耳を傾けながら働く生活を始めたAさんに心から敬意を表します。